錬肉工房創立55周年記念企画

# 錬肉工房アーカイブ 1971—2026
## 岡本章演出代表作品映像特別上映会

**2026年10月10日［土］｜10月17日［土］　両国門天ホール（墨田区両国）**

10月10日［土］　第1部 13：00 ～ 16：00｜第2部 17：00 ～ 20：00｜トーク 20：30 ～ 21：30
10月17日［土］　第1部 12：00 ～ 16：00｜第2部 16：30 ～ 20：00｜トーク 20：30 ～ 21：30

**料金**
第1部＊2,000円
第2部＊3,000円
第1部、第2部通し券＊4,000円

**会場**
両国門天ホール

**予約・お問い合わせ**
錬肉工房
TEL 04-7163-9263
https://www.rennikukobo.com

映像上映➲飯名尚人
舞台監督➲國井聡
宣伝美術➲宗利淳一
主催➲錬肉工房

水の鏡

水の声

現代能「無」

ハムレットマシーン

**10月10日［土］**

**第1部**
13:00 ~ 16:00
「水の鏡」（1982年）
「水の声」（1991年）

**第2部**
17:00 ~ 20:00
現代能「無」（1998年）
「ハムレットマシーン」（1998年）

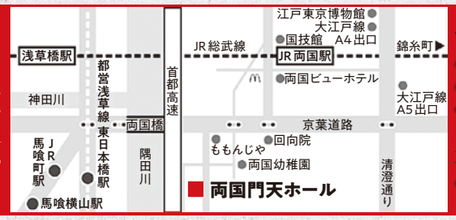
**トーク**
20:30 ~ 21:30
西堂行人（演劇評論家）
×
岡本章（演出家・錬肉工房主宰）

実験性と根源性に貫かれた、
その驚くべき営為の全貌！

10月10日［土］
13:00 ~
上映作品
「水の鏡」
「水の声」
現代能「無」
「ハムレットマシーン」
トーク
西堂行人（演劇評論家）
×
岡本章（演出家・錬肉工房主宰）

錬肉工房創立55周年記念企画
錬肉工房アーカイブ 1971—2026
岡本章演出代表作品映像特別上映会
2026年10月10日［土］｜10月17日［土］　両国門天ホール（墨田区両国）

**両国門天ホール**
〒130-0026
東京都墨田区両国1-3-9　ムラサワビル1-1階
Tel & Fax：03-6666-9491
E-Mail：contact@monten.jp




**アクセス**
- JR「両国駅」西口より徒歩5分
- 地下鉄都営大江戸線「両国駅」A4、A5出口より徒歩10分
- 地下鉄都営浅草線「東日本橋駅」より徒歩10分

**車でご来場の皆様**
- 駐車場はございませんので、近隣のコインパーキングをご利用ください。

錬肉工房は、1971年の創立以来、
〈言葉〉と〈身体〉の関係を根底から問い直し、
また、様々なジャンルの現代芸術のアーティストたちとの共同作業、
そして能を現代に開き、活かす「現代能楽集」の連作など、
数々の実験的、根源的な上演活動で演劇界に衝撃を与え、
高い評価を得てきました。
今回、創立55周年を記念して、ご要望に応え、
錬肉工房と岡本章の初期から現在までの、
貴重な選りすぐりの代表作品映像を、
一挙公開上映します。

現代能「ベルナルダ・アルバの家」

月光の遠近法

現代能「始皇帝」

西埠頭／鶴

**10月17日［土］**

**第1部**
12:00 ~ 16:00
現代能「ベルナルダ・アルバの家」（2002年）
「月光の遠近法」（2005年）

**第2部**
16:30 ~ 20:00
現代能「始皇帝」（2014年）
「西埠頭／鶴」（2017年）

**トーク**
20:30 ~ 21:30
小田幸子（能狂言研究家）
×
岡本章（演出家・錬肉工房主宰）

**錬肉工房創立55周年記念出版！**
**『錬肉工房の軌跡1971—2026』**
**2026年12月刊予定！**
錬肉工房編　論創社刊

書き下ろし論考、エッセイ、対談、初期戯曲、演出ノート、貴重な活動資料などを多面的に収録。

**衝撃と感銘を与えた、**
**代表作品映像の公開上映！**

錬肉工房と
岡本章の
貴重な代表作品映像を、
一挙公開！

10月17日［土］
13:00 ~
上映作品
現代能「ベルナルダ・アルバの家」
「月光の遠近法」
現代能「始皇帝」
「西埠頭／鶴」
トーク
小田幸子（能狂言研究家）
×
岡本章（演出家・錬肉工房主宰）

主催
錬肉工房
TEL 04-7163-9263
https://www.rennikukobo.com

## 2026年10月10日［土］

### 第1部 ✦ 13:00 ~ 16:00

#### 「水の鏡」（91分）

作・構成・演出
**岡本章**

出演
**岡本章、関口綾子、長谷川功、金子三郎**

初演
**1982年5月　錬肉工房アトリエ**

**初期のラディカルな問題作**

叫びや吃音に似た音声が次第に分節言語となってたちまちのうちに意味を蝟集させてゆく過程、あるいは逆に、私たちを囲繞する諸制度、枷としての言葉、幻想などの堅い枠組みが内部から喰い破られてゆく過程、これらのどちらともつかないその間にあって、鋭い緊張関係の下に引き裂かれるべく、身を尽そうとする人々を演戯者と呼ぶのではなかったのか。

**（國吉和子『美術手帖』1982年7月号）**

#### 「水の声」（70分）

構成・演出
**岡本章**

出演
**関口綾子、浅井文義、粟谷能夫、瀬尾菊次、大木晶子、美音子グリマー（音響彫刻）、藤枝守（コンピュータ音楽）**

初演
**1990年11月　錬仙会能楽研修所**

**スリリングなコラボレーションの試み**

関口綾子が暗い光の中を立ちあがる。身に纏っているゆったりとした黒いサック・ドレスの中で手があがり、声は震えてくぐもりながら「ふるふるふるへふりしきる雨の」と語り始める瞬間に、声の現れのセクシャリティーが、能舞台という空間の内側に、誰も予想しない官能の呟きとなって拡がっていった。（中略）岡本章の芝居の構成は、解放感と成熟を示している。

**（土屋恵一郎『図書新聞』1991年1月1日）**

### 第2部 ✦ 17:00 ~ 20:00

#### 「現代能『無』」（61分）

構成・演出
**岡本章**

出演
**大野一雄、観世榮夫、瀬尾菊次、小野里修、三宅榛名（演奏）**

初演
**1998年6月　シアターコクーン**

**舞踏と能の第一人者の共演**

存在の根元から立ちゆらめく大野一雄の肉体から、過剰な生へのエネルギー、救済を感じとったのは、わたしだけではあるまい。スタイルや様式から抜け出し、いっさいのよすがから無縁の単独的な存在であるこの舞踏手は、表現というものの、ある極北を指差している。そこに、能とベケットの、つまり東洋と西洋の虚無の深淵を根元で問おうとする演出家のまなざしが看て取れるのだ。

**（西堂行人『テアトロ』1998年8月号）**

#### 「ハムレットマシーン」（74分）

作
**ハイナー・ミュラー**

演出
**岡本章**

出演
**瀬尾菊次、川手鷹彦、岡本章、長谷川功**

初演
**1998年10月　世田谷パブリックシアター**

**20世紀の問題作への挑戦**

これは翻訳劇でも翻案劇でもない。舞台というテクストへ創作された現代の夢幻能か、他者＝異質なものとの出会いと探り合いの生成の場、演劇の可能性と異文化との遭遇の探りの新たな地平ではないだろうか。出会いとは、むしろ〈分らなさ〉の実態を問うことからはじまる。それが自己と他者の双方を問い返し、その境界を照らし出し、ボーダーレス＝越境／通底を真に可能にしてくれるだろう。この上演は、そういうことをも考えさせる画期的な試みであった、と思う。

**（谷川道子『図書新聞』1999年1月1日）**

「水の鏡」

「現代能『ベルナルダ・アルバの家』」

「水の声」

「月光の遠近法」

「現代能『無』」

「現代能『始皇帝』」

「ハムレットマシーン」

「西埠頭／鶴」

## 2026年10月17日［土］

### 第1部 ✦ 12:00 ~ 16:00

#### 「現代能『ベルナルダ・アルバの家』」（114分）

作
**ガルシア・ロルカ／水原紫苑**

構成・演出
**岡本章**

出演
**観世榮夫、山本順之、櫻間金記、上杉満代、新井純、鈴木理江子、千賀ゆう子、友貞京子、西山水木、森下真理、横田桂子、藤田るみ**

初演
**2002年2月　テアトルフォンテ　3月　横浜能楽堂**

**ロルカの名作による現代能の追求**

古典芸能に造詣の深い岡本の演劇手法は、いたずらに伝統に依るのではなく、能なら能の様式・技法を一度解体した上で再構築するのだが、そこで残るのは、榮夫なら榮夫の能役者として叩き上げてきた声・身体の実存そのものである。同時にそこには、劇を枠取る演出家・岡本章という外部の目があるから、榮夫の恣意によって声・身体が浮遊することはない。

**（村上湛『新・能楽ジャーナル』2002年第11号）**

#### 「月光の遠近法」（93分）

作
**高柳誠**

構成・演出
**岡本章**

出演
**上杉貢代、笛田宇一郎、友貞京子、岡本章、川根隆伸、辻みち子**

初演
**2005年3月　麻布die pratze**

**言葉と身体が切り結ぶアクチュアリティ**

夢の中に死者たちが現れ、狂王ルートヴィヒ二世、マグダラのマリアらとおぼしき声が聞こえ、姉弟の対話が切れ切れに聞こえてくる。それらがソポクレスの『エレクトラ』に結実し、観客を圧倒する瞬間、二千五百年もの時を超えてすべてが砕け、場は一気に炸裂して、現在時に戻る。（中略）錬肉工房は秘技を重んじる高踏芸術集団ではない。

**（新野守広『図書新聞』2005年7月9日）**

### 第2部 ✦ 16:30 ~ 20:00

#### 「現代能『始皇帝』」（95分）

作
**那珂太郎**

演出
**岡本章**

出演
**観世銕之丞、山本東次郎、宝生欣哉、柴田稔、小早川修、馬野正基、浅見慈一、北浪貴裕、長山桂三、谷本健吾、山本則重、山本則秀**

初演
**2014年3月　国立能楽堂**

**新たな能の展開の達成**

後場では、徐福自身となった後裔と始皇帝の霊魂が、強大な権力と永遠の生命のむなしさを語り合い、始皇帝は舞を舞った後、「宇宙の塵」となって消えるのだが、スケールの大きなこの物語を前にして観客は、始皇帝も徐福もわれわれも、同じ生命体のひとつなのだという思いを抱かせられる。人間の欲望追求に邁進する現代社会に鋭く切り込んだ本作は、内容においても演出においても、「現代能」の名にふさわしい。

**（小田幸子『観世』2014年6月号）**

#### 「西埠頭/鶴」（84分）

作
**ベルナール＝マリ・コルテス／世阿弥**

構成・演出
**岡本章**

出演
**上杉満代、笛田宇一郎、横田桂子、岡本章、川根隆伸、牧三千子、村本浩子、吉村ちひろ**

初演
**2017年3月　上野ストアハウス**

**持続する挑戦の作業**

岡本章が演劇を開始した1970年代は舞台と批評はせめぎ合っているのが当たり前だった。80年代前後に錬肉工房の舞台に接したわたしは、いまだ思考を挑発し続ける彼の活動に、変わらぬ「演劇の運動」の継続を見る。その変らなさは有為転変する現代演劇では貴重である。それは同時に、つねに新しく変わり続けることと同義なのである。

**（西堂行人『テアトロ』2017年6月号）**